

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成21年度農作物病害虫発生予察情報について

平成21年度農作物病害虫発生予報第10号を発表したので送付します。

平成21年度農作物病害虫発生予報第10号

平成21年11月30日
徳 島 県

.野菜

秋冬ダイコン

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並～やや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月前半の巡回調査では、発生圃場率が57.1%、25株当たり寄生虫の発生程度指数が 2.6であり、平年(12.6%、0.3)と比べて発生圃場率がやや高い。
- (2) 11月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ブロッコリー・カリフラワー

黒腐病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月前半の巡回調査では、発生圃場率が45.5%、発病度が 1.1であり、平年(40.9%、3.1)並の発生であ

る。

(2)11月27日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並又は高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除効果が見られなくなるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後はできるだけ速やかに薬剤散布を行なう。

(2)害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も確実に行なう。

(3)被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)11月前半の巡回調査では、発生圃場率が9.1%、寄生株率が0.7%であり、平年(49.0%、8.9%)よりやや少なめの発生である。

(2)11月27日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並又は高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

コナガ

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)11月前半の巡回調査では、発生圃場率が27.3%、10株当たり幼虫及び蛹数が0.1頭であり、ほぼ平年(16.2%、0.1頭)並の発生である。

(2)11月27日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並又は高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)コナガは葉裏に生息しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

(3)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 8.3%,発病度が 2.1)。
- (2)11月27日発表の 1 ヶ月予報では、気温は、平年並又は高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)品種は、本病レース 1 ~ 7 に抵抗性があるものを利用する。
- (2)平均気温が 8 ~ 18 で曇雨天が続くと多発しやすく、発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3)葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。
- (4)薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (5)罹病株を圃場に放置すると次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並),発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が29.3%,50株当たり寄生程度指数が 7.3)。
- (2)11月27日発表の 1 ヶ月予報では、気温は、平年並又は高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率が23.1%,発病葉率が 0.3%であり、ほぼ平年(11.4%, 0.7%)並の発生である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3)古葉を早めに除去し、薬剤防除にあたっては、葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (4)同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。
- (5)展着剤は規定範囲内で多めに加用する。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率が38.5%、寄生株率が 5.5%であり、ほぼ平年(32.8%、 5.1%)並の発生である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率が69.2%、寄生葉率が 7.6%であり、平年(27.7%、 3.9%)と比べてやや多めの発生である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

(3)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

.その他

1.薬剤の使用にあたっては、必ず農薬ラベルの記載事項を遵守して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

テレホンサービス：0 8 8 3 (2 6) 1 1 9 9

U R L : <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。